学校評価・情報公開

令和 7 年度　自己点検・自己評価報告書

1　自己点検・自己評価の目的

本校では、教育活動及び学校運営の状況を継続的に点検・評価し、教育の質の維持・向上と学校運営の改善につなげることを目的として、自己点検・自己評価を実施している。本報告書は、その結果の概要を公表するものである。

2　評価の方法

教員による回答を基に、9 領域・95 項目について集計した。各項目を「4：そう思う」「3：ややそう思う」「2：あまりそう思わない」「1：そう思わない」の 4 段階で評価し、「わからない」は集計対象から除外した。各領域の平均点は、項目ごとの平均点を平均した数値である。

※数値は教員による自己評価の結果であり、学生の学修成果等を直接示すものではない。

3　領域別評価結果

領域	評価領域	平均点
I	教育理念・教育目的	3.1
II	教育目標	3.2
III	教育課程経営	2.8
IV	教授・学習・評価過程	2.8
V	経営・管理過程	2.3
VI	入学	2.6
VII	卒業・就業・進学	2.3
VIII	地域社会・国際交流	2.2
IX	研究	2.0

平均点は小数第 2 位を四捨五入して表示した。

4　評価結果の考察と今後の取組

各領域の評価結果を踏まえ、主な状況と改善に向けた方向性を以下に整理した。改善に向けた取組は、継続して検討・実施する。

Ⅰ　教育理念・教育目的

評価・課題　教育理念・教育目的と法との整合性については平均 3.4 点であり、多くの教員が肯定的に捉えていた。一方、教育理念・教育目的が学生の学習や教員の教育活動において実際の指針となっているかについては、教員間で評価に差が見られた。理念の内容を理解することと、日々の教育実践に反映させることとの間に課題があると考えられる。

今後の取組　教育理念・教育目的が実際の指針となっていないと捉えられる要因を点検し、授業・実習指導との関連を確認しながら改善を図る。

Ⅱ　教育目標

評価・課題　教育理念・教育目的と教育目標の一貫性は比較的高く評価された一方、教育目標の設定意図や教育活動における位置付けについては評価にばらつきが見られた。教育目標の趣旨が教員全体に十分浸透していない可能性があり、共通理解を深める必要がある。

今後の取組　新任教員に対するオリエンテーションなどで教育目標の設定意図を丁寧に説明するとともに、全教員が教育目標を意識して指導できる体制づくりを進める。

Ⅲ　教育課程経営

評価・課題　領域平均は 2.8 点であり、教員間で評価に大きな差が見られた。同じ教育課程の運営を対象としながら認識が異なることは、編成の意図や運営上の考え方が十分に伝わっていない可能性を示している。教職員間のコミュニケーションや情報共有の在り方を点検する必要がある。

今後の取組　教育課程の編成が意図的・計画的に行われていないと感じる理由を具体的に把握する。その上で、編成意図や評価方法の共有を進め、教職員間で改善策を検討する。

Ⅳ　教授・学習（講義・演習・実習）・評価過程

評価・課題　領域平均は 2.8 点であった。教育課程経営と実際の教授活動とは密接に関係するため、この結果を重く受け止める必要がある。講義・演習・実習の展開方法や学修評価の在り方について、教員集団としての理解と実践をさらに深めることが課題である。

今後の取組　講義・演習・実習及び評価過程について、教職員が共に学び、教育活動を検討する機会を設ける方向で取り組む。

Ⅴ　経営・管理過程

評価・課題　領域平均は 2.3 点であり、平均点が 2 点以下となった項目が 3 項目あった。学校経営に関する情報が十分に伝わっていないことや、意見を反映する仕組み、施設・設備等の整備に課題があることがうかがえる。また、准看護師課程の閉科に伴う受験者数の減少により、定員確保が困難な状況も学校運営上の重要な課題となっている。

今後の取組　学校運営の透明性と情報共有を高め、教職員が学校経営の当事者として意見を出し合える仕組みを検討する。学生の確保についても、教職員全体で課題を共有して対応を考える。

Ⅵ　入学

評価・課題　入学者選抜に直接携わる職員が校長・教務部長・事務職員に限られていることから、選抜方針や入試委員会の運営について教職員全体にどの程度共有されているかが課題となった。一方、入学希望者確保のための募集活動は比較的高く評価された。

今後の取組　入試委員会の役割や入学者選抜の考え方を教職員全体で共有し、受験者の確保に向けた方策を検討する。

Ⅶ　卒業・就業・進学

評価・課題　卒業後の就業・進学状況や卒業生の活動状況をどのように把握・評価し、教育活動に活用しているかについて、教職員間で十分な情報共有がなされていないと考えられる。そのことが、評価結果のばらつきにつながっている可能性がある。

今後の取組　卒業生の状況の把握方法と評価結果を共有し、得られた情報を教育課程や授業の改善に結び付ける在り方を検討する。

Ⅷ　地域社会・国際交流

評価・課題　この領域では全ての評価項目の平均点が 3 点未満であった。地域社会との連携・貢献や教育活動の情報発信、国際的視野を広げる学修環境などについて、十分な体制が整っていないことがうかがえ、領域全体での改善が必要である。

今後の取組　地域との連携や教育活動の情報発信の在り方を見直すとともに、学生の国際的視野を育む学修支援を含め、段階的な改善を検討する。

Ⅸ　研究

評価・課題　領域平均は 2.0 点で、9 領域の中で最も低かった。研究活動を教員相互で支援する風土や、研究のための時間・財政・環境、助言・検討体制が十分に保障されているとは言い難い。教員の教育力を維持・向上させる観点からも改善が必要である。

今後の取組　教員の研究活動を支援する時間的・環境的条件や、相互に助言・検討できる体制について改善を検討する。

5　総括

教育理念・教育目標の内容自体は比較的肯定的に評価されたが、教育活動の実際の指針としての活用、教育課程の運営意図の共有、教授・評価方法の充実が課題となった。また、経営情報の共有と学生確保、卒業生の状況把握、地域社会・国際交流、教員の研究活動に関する体制整備の必要性が明らかになった。今後は、教職員間の認識の差が生じる要因を把握し、評価結果を教育活動と学校運営の改善につなげる。